



2018 九州オープン選手権競技

競技報告 (2018/ 8.2 - 5)

写真と記事 : M. Kikutake

通算 14 アンダー 270

比嘉一貴 (フリー) が初優勝

アマは古川雄大 (大博多) が初のベストアマ獲得

2018 九州オープンゴルフ選手権競技 表彰式

2018 九州オープン選手権競技は8月2日から4日間、鹿児島県始良市の鹿児島高牧カントリークラブ(6892ヤ、パー71)で行われ、通算 14 アンダー、270 の好スコアで 23 歳、比嘉一貴(フリー)が初優勝し、優勝賞金 300 万円と、特別協賛「えんホールディングス」の副賞 200 万円の計 500 万円を獲得した。比嘉は今年の第 83 回日本オープン選手権(10月11日から、神奈川県・横浜CC)の出場権も獲得。

1 打差の 2 位は黒木紀至(UMKテレビ宮崎、24 歳)で、さらに 3 打差の通算 10 アンダーで前年優勝の北村晃一(ミッションパレー、33 歳)だった。



プロルーキーの比嘉は早くも 2 勝目

比嘉は沖縄出身。本部高から東北福祉大に進み、日本ゴルフ協会(JGA)のナショナルチームメンバーとして活躍。4年生の昨年 11 月にプロ入りしたばかりで、ルーキーイヤーでの九州制覇となった。また、6月の男子下部ツアー、南秋田CCみちのくチャレンジ 2018 でも優勝しており、早くも国内 2 勝目。

アマチュアは、通算 5 アンダー、279 で総合でも 10 位タイの東海大九州 3 年、21 歳の古川雄大(大博多)が初めてのベストアマを獲得した。古川は今年の九州アマチュア選手権も 2 度目の優勝を果たしており、連盟競技 "2 冠"。セカンドアマは通算イーブンパー、284 で 19 位タイの宮崎・日章学園高 2 年、山口泰知(オーシャンパレス、16 歳)、サードアマは 4 オーバーで 31 位タイの沖縄・宮古総合実高 3 年、多良間伸平(ベルビーチ、18 歳)だった。

なお、この試合の第 1 ラウンドで坂田雅樹(尙SAKATA、40 歳)が 12 番(152 ヤ、パー 3)でホールインワンを達成、開催コースから特別賞が贈られた。



酷暑の中での熱い戦い

選手権には 144 人（うち、アマ 38 人）が出場。

初日は 1 イーグル、6 バーディー、2 ボギーの 6 アンダー、65 をマークしたプロ 16 年目の 40 歳の長谷和宏（ゴルフパラダイス飯塚店）が単独首位発進。これを 1 打差で比嘉が追い、さらに 1 打差で 43 歳のベテラン宮下進一（南九州）が追いついた。アンダーパーをマークしたのは計 25 人へののり、前回優勝の北村晃一（ミッションバレー）は、小田孔明（プレナス）、アマチュアの古川、多良間らとともに首位に 4 打差の 7 位タイグループにつけた。

2 日目の第 2 ラウンド（R）は、3 位スタートの宮下が 7 バーディー、3 ボギーの 67 と連日の 4 アンダーで通算 8 アンダーと伸ばし、68 の比嘉とともに首位タイに並んだ。

1 打差の 3 位は長谷。男子ツアーで賞金ランク 2 位と好調の 28 歳、秋吉翔太（ホームテック）が北村、古川らとともに通算 4 アンダーの 6 位タイにつけた。

この日で予選が終わり、通算 5 オーバー、147 の 56 位タイまでの 64 人（うち、アマ 6 人）が後半の決勝ラウンドへ進んだ。地区予選から勝ち上がって参戦したただ 1 人の女子選手、山崎琉日（福岡）は予選落ちした。

3 日目の第 3 R は、比嘉が 7 バーディー、2 ボギーの 66 で通算 13 アンダーとして単独での首位を守った。2 打差の 2 位タイには、この日ベストスコアタイの 65 をマークした黒木と、68 の宮下が並んだ。アマチュアの古川も 66 と善戦し、首位に 4 打差の 9 位につけた。

最終日の第 4 R は一段と熱さも厳しくなり（気温 32.9 度、南東の風 2.2 ㍎＝正午現在）体力、気力の勝負となった。

そんな中、首位タイで出た比嘉が 2 バーディー、1 ボギーとスコアを 1 つ伸ばし、通算 14 アンダーとした。終盤に黒木に追い上げられ、17 番では 1 打差までに詰め寄せられたが、逃げ切った。通算 10 アンダーの 3 位に北村。

アマチュアは、首位に 4 打差の 5 位で最終日を迎え、期待された古川が 4 日間で初めてオーバーパーの 75 を打ち、10 位タイに終わった。



(C)GUK



「九州に恩返しができた」 自信もつかんだ比嘉一貴

実質、プロの試合に出場し始めて 4 か月での九州オープン制覇だった。

かつてのツアー賞金王、小田孔明や、現在のツアー賞金ランク

2 位の秋吉翔太らツアーシード勢や、この大会 2 勝の北村晃一…と並み居る実力者を抑えての優勝に、「九州は選



(C)GUK

手層が厚いし、お世話になってきた九州ゴルフ連盟の主催試合で勝って、うれしい。恩返しができた」と喜んだ。

決して楽な試合ではなかった。日本を代表するアマチュア出身。後続に2打差の首位で迎えた最終日。一時は後続に5打差をつけた。しかし、終盤になって黒木の猛追を受けた。黒木は15番からバーディー、イーグル、バーディーで1打差。18番では、黒木の出来から、「2打目からあまり記憶にないほど」という緊張に襲われたが、冷静にパーをセーブ。薄氷を踏むような真夏の勝利だった。



沖縄県出身。中学（具志川中）、高校（本部高）時代から九州ジュニアで活躍。東北福祉大に進学してからも九州アマチュア選手権に挑み続け、2位が2回などの実績を残している。本部高2年から大学を卒業するまでの6年間、日本ゴルフ協会（JGA）のナショナルチームに選出され、国内外の試合で経験を積み、2015ユニバーシアード優勝、16年日本オープンではアマのトップ、ローアマチュアにもなった。

昨年11月にプロ転向。しかし、今季のツアー出場順位を争うクオリファイング・トーナメント（QT）3次で過少申告のミス。4月に出場機会得たアジアンツアーの下部ツアー、「BTIオープン」（バングラディッシュ）でプロ初優勝。国内でも「みちのくチャレンジ」での優勝に続き、8月の九州オープン。偶数月の試合を制した。

現在は沖縄在住で転戦する。今後はアジアン下部ツアーや出場機会を得ている「RIZAP KBC オーガスタ」や今回の勝利で得た日本オープンが控え、プロテスト受験も待っている。

つかんだチャンスをもものにしながら比嘉は進む。「海外も行けるといに行きたい。九州オープン優勝に恥じないようにしていきたい」と力強かった。



黒木紀至（1打及ばず2位）

前半はあまりチャンスもなかったが、比嘉選手が安定していたし、自分で伸ばさないといけないと攻めた。（終盤の猛追は）ここまで追い上げることができるとは思わなかった。

北村晃一（3勝目を狙うも）

出だしの1、2番で連続して3パットのボギーし、この時点で（今日は）ダメだな、と。シャフトを試しているドライバーがじっくりこなかった。

ベストアマにも「打ちのめされた」と古川雄大

〇…今年の九州アマ2勝目に続き、初めてのベストアマ。首位に4打差の5位は逆転も可能な位置で、史上3人目のアマ優勝も、と期待されていた。

スタートの4ホールはパーを重ね、「いい感じだった」。ところが、5番で3パットのボギーとしてから3連続ボギー。「難しいところにピンが切ってたし、ボギーが先行して流れに乗れなかった」「最後は憂鬱になった」「打ちのめされた感じがする…」と口を突くのは反省ばかりだった。

ただ、収穫もないわけでもない。プロとのラウンドで「ゲームの組み立て、マネジメントの大事さを再認識させられた」。次への「糧、はしっかりつかんでいたようだ。

